

(山本会長が声帯手術のため、声が出ませんので、副会長の伊藤順子が、会長の準備した、あいさつ文を代読いたします)

平成 28 年度、第 20 回の記念すべき大会の開会にあたり、ご挨拶申し上げます。

平成 9 年 9 月 11 日、このオリンピック記念青少年総合センターで、今は亡き、広島県の山元利成(としなり)さんを初代会長として発足し、志に燃えた先輩たちの、たゆまぬ努力によって、今日まで、育成運動が続けられて参りました。

全ての運動が、手弁当のボランティアであり、それぞれの会員が仕事の合間をぬっての活動であるにも関わらず、その志を受け継ぎ、全国からご参集頂きました仲間・いや、同志の皆様々に心から御礼申し上げ、この 20 周年記念大会を、共に喜び合いたいと思います。

また、少ない会員の中で、この大会を準備いただいた関東ブロックの皆様々に、厚くお礼申し上げます。

とりわけ、公務ご多用の中、青少年育成の重要性を深くご認識いただき、常日頃から我々の運動を支援して頂いております

衆議院議員、石破 茂(いしば しげる) 地方創生担当大臣をはじめ・・・  
全国青少年育成県民会議連合会の八村輝夫(はちむら てるお) 会長、様  
本会顧問の上村文三(かみむら ぶんぞう) 様・・・  
総会の後に御講演をいただく内閣府参事官補佐 園部重治(そのべ しげはる) 様

の皆様々に、感謝と敬意の誠を捧げたいと思います。本当に有難うございます。  
今後ともよろしくご指導・ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

又、この後(あと)、アドバイザーとして多年、青少年の健全育成運動に尽くされた功績により、表彰を受けられる皆さん。おめでとうございます。  
今回の受賞を新たな出発点として、私達後輩をご指導いただき、益々のご活躍をお祈りいたします。

さて、私が申し上げるまでも無く、急激な社会の発展と、それに伴う変化によって、様々な社会問題が生じ、その強い影響を受けて、青少年問題も複雑で深刻になり、地域の未来や我が国の将来に、不安の影を落としています。

我が国の現状を見る時、産業・経済をはじめ、あらゆる分野で激しい国際競争が続き、この渦(うず)の中で、いかに勝ち抜くかに、必死の状況であります。

このために、弱肉強食の社会となり、日本人が一番大切にしてきた、「共に生きる心」を失ってしまったのではないかと危惧しております。

それは「社会を写す鏡」と云われる、子ども達の中に、いじめ・虐待・引きこもり・自から命を絶つ若者、更にはネットにまつわる被害、など、憂慮すべき青少年問題が続いており「心を失った日本」の姿を映し出している、現実があるからであります。

格差による貧困家庭、様々な障害を抱える子ども達など、支援を必要とする子ども・若者も増加しています。少子高齢化社会の中で、若者は都市に集中し、地域から子ども・若者の姿が少なくなっており、地方創生の重要課題ともなっています。

私は、厳（きび）しい社会であるが故に、人間は一人で生きているのではなく、共に生きていることを自覚し、互いに支え合い・助け合う日本の姿を取り戻すことが、必要であると考えています。自分は一人ではない、味方や理解者が居るとの実感を持つことが、明日への希望につながります。

これが、次代を担う青少年の育成に不可欠なエネルギーとなり、競争社会を生き抜く力をつくる秘訣であると信じています。

そんな思いの中で、会長という重責を担い、全国の皆様のご支援をいただき、この一年間、国民運動の再興を願い、「我づくりを積み上げて、社会づくり・国づくりを！」をスローガンに、「組織の見直し」、「アド養成講座の実施」、「子どもが伸びるチャンスを活かす運動」「ありがとう一日100回運動」「青少年健全育成基本法」の制定要望運動、等に取り組み、更には、HP（ホームページ）を立ち上げて、これらの育成運動を、会員や全国に広報・啓発してまいりました。

この、本会結成20年を記念する東京大会は、我が国の現状をシッカリと見つめ、これまでの運動を総括し、「我々の運動は、本当にこのままで良いか！」と、問い直し、「社会の一員として、逞しく生きぬく力を備えた、青少年の育成」をめざして、新たな運動の出発点とすべき、極めて重要な意味をもつ大会であります。

かけがえの無い、私達の宝である、子ども・若者たちが、家庭や地域の中で、瞳（ひとみ）を輝かせ、未来に希望を持って生きることのできる、社会づくり・国づくりの為に、自（みずか）ら、内なる闘志を燃やし、その志（こころざし）を切磋琢磨（せっさ たくま）しあい、新しい決意と希望に燃える20回大会となりますことを、心から祈念して、開会のごあいさつと致します。

・ ・ よろしく、お願いいたします。